



平成7年の就業人口をみると、第3次産業が8、205人（59・6％）で最も多く、第2次産業は3、653人（26・6％）、第1次産業は1、893人（13・8％）となっている。

昭和55年～平成7年の推移をみると、農業が△487人（△31・2％）、漁業△429人（△34・8％）、運輸通信業△340人（△27・6％）と大きく減少し、一方、製造業で+575人（+33・1％）、サービス業+392人（+11・6％）と増加をみせている。

また、年齢別就業割合は、第1次産業における高齢化が目立っている。

産業別就業人口の推移（15歳以上）

資料・国勢調査

区 分		年 次		昭和55年		昭和60年		平成2年		平成7年	
				総 数	構成比	総 数	構成比	総 数	構成比	総 数	構成比
1次	農 業			1,559人	19.8%	1,493人	18.6%	1,199人	15.8%	1,072人	13.8%
	林 業			33		32		23		19	
	漁 業			1,231		1,122		979		802	
2次	鉱 業			15	21.9	49	23.8	40	25.7	38	26.6
	建 設 業			1,367		1,296		1,306		1,301	
	製 造 業			1,739		2,031		2,226		2,314	
3次	電気・ガス水道業			77	58.3	79	57.6	49	58.4	82	59.6
	運輸通信業			1,232		1,102		949		892	
	卸売・小売業 飲食店			2,910		2,916		2,908		2,764	
	金融保険業			245		258		245		216	
	不動産業			23		24		27		36	
	サービス業			3,387		3,356		3,494		3,779	
	公 務			434		455		457		436	
分類不能の産業				3	0.0	-	-	10	0.1	3	0.0
計				14,255	100.0	14,213	100.0	13,912	100.0	13,754	100.0

年齢別就業割合（平成7年）

		15～29歳		30～49歳		50～69歳		70歳以上	
1次	2.6%	18.5%		55.1%		23.8%			
2次		12.0%		45.7%		38.1%		4.2%	
3次		16.5%		45.3%		33.0%		5.2%	